



10年以上愛用しているが極上の状態を保っているマッコイのライダース。今は革ジャンってあんまり着ないですね(笑)と、彼らしい飾らない返答が帰ってきた。普段はアウトドア系のジャケットを愛用する。



彼がFLと共に愛情を注ぐZ1100GP。「それぞれのジャンルで仲間がいます」と交友関係の広さを伺わせる。



ビッグディで知られるエドロスがシカゴの様子を描いたアートポスター。友人からの海外土産だ。



ランタンかと思いきやアンティーク調の石油ストーブ。インテリア的にも洒落な雰囲気を出している。



日産のトラック「ホームー」の当時物ポスター。グレンダイザーやライディーンといった70年代ロボットアニメの重鎮たちが勢揃いの激レアアイテムだ。



レコードを数百枚所蔵。LPだけではなくシングル盤もコレクションしており、お気に入りイベント時にターンテーブルに乗ることも。



彼が最もフェイバリットとしているのがこの「ヒゲ」のテーマ。主宰するイベントでは定番曲となっている。



横浜銀鯉の『ぶっさぎり Rock'n Roll』は彼がロックに傾倒するきっかけとなった貴重なナンバー。



小学生当時に購入した、ご存じチャネルズのデビュー曲ランナウェイ。110万枚という大ヒットしたウチの1枚だ。



彼が最もフェイバリットとしているのがこの「ヒゲ」のテーマ。主宰するイベントでは定番曲となっている。



主宰するイベントでDJを担当する彼にとってターンテーブルは言わば商売道具。ヘッドフォンと共にテクニクス製を愛用。ミキサーはベスタクス製。



この空間の中でバイクに次ぐ存在感を示しているのがウッドベース。もちろん彼がプレイするもので、20年来の愛用品。主にロカビリーを奏することが多く、今にも重厚なベースラインが聞こえてきそう。



FLに用意した新たなタンクにはオリジナルエンブレムをアルミの削りでワンオフ製作。「ShuvelBell」とは彼のオリジナルブランド。



実家にあったというクラシックなAMラジオ。実はコレ、SONYの前身である東京通信工業製という激レア品なのだ。



小学生の頃から愛用しているというカンペンケース。現役で愛用されているところからも物持ちの良さが伺えるだろう。



20年前に購入したというジョンソンのブーツ。状態維持のためバイクに乗る時はあまり履かないようにしているそうだ。



ShuvelBell 38歳。群馬県在住。幼少の頃からアメリカモノに興味を示すようになる。着ていただいたのは若い頃に仲間と共に作ったという、映画『ファンタズ』のレブリカジャンパー。ポロポロなのだが捨てられない一着。

16歳で免許を取得後、なんと18歳で最初のH-Dに乗り、今年で早20年……。もはや彼にとつてバイクは切っても切れない朋友となつていて、言葉でも過言ではなからう。そんな彼は住居内にバイクを置いておきたいといった、ちょっとした特殊な気持ちも覗ける。完成時の感想は「思ったよりも狭かった」と話す。この空間兼住居を新築したのは約5年前。現在ここにはFLとZ1100GPの2台を格納しているために少々手狭だが、愛着のあるアイテムが濃縮されていると考えれば気にならないだろう。バイク系と共に音楽系小物もあるのだが、どれもが綺麗に整頓されて、雑多な雰囲気は感じられない。自宅にこの空間を設置しようとしたコンセプトは「バイクと身近に暮らせること」と「仲間が集える空間が欲しい」という2つの理由。「一見すると無骨なもので溢れた「男のための空間」とも取れる場所なのだが、家族からの理解もあり、7歳になる愛娘もよく遊びに来るそうだ。うーん、なんとも羨ましい。なお、この部屋は幼少の頃から「モノが捨てられない」という秘蔵アイテムや常用ツールを収納する場所でもある。現在では遊び場だけでなく、仕事場としても活用しているほど特別な場所だ。しかしH-D仲間、旧車仲間、音楽仲間といった幅広い交友関係を築いている彼にとっては、気軽に仲間が訪れて他愛のない話で盛り上げられる憩いの場として有意義に活用されているのだ。



ソフトテイル、ショベル、そしてFLが彼のH-D歴。FLにはストックのシートが装着されていたが、現在は換装済み。入庫庫は部屋に合わせて自作したという木製机。実はここではデスクワークもこなす。ブーツを収納するのに丁度良いサイズ。



現在のFLの前にFXWGに10年以上乗っていた。エンジンをO/Hしたのも束の間、車輛は知人に売ってしまうことに。



木製の棚にはパーツの他にもアンティークなアイテムがディスプレイされている。「キャプテラーの形が美しいですね」と言うだけあり、いくつかのマニアクなキャプテラーが収集されている。

仲間と楽しい時を過ごすのが自分流。